

地域再生法に基づく地域再生計画の事後評価

平成27年9月
島根県・邑南町

1. 地域再生計画の概要

計画名称	Oh!なんと安心と癒やしのまちづくり計画
作成主体	島根県・邑南町
計画区域	邑南町全域
計画期間	平成22年度～平成26年度
支援措置	地域再生基盤強化交付金(道整備交付金事業)
認定日等	地域再生計画認定(平成22年3月23日) 地域再生計画変更認定(平成24年3月29日) 地域再生計画変更認定(平成26年3月28日)
計画趣旨	○町中心地域で整備されている基幹林道と中心部を横断する幹線町道や旧町村間を連絡する路線を一体的に整備し、広大な区域となった新町内の移動環境を改善し定住促進を図る。又幹線道へ接続する、地域生活道を整備することにより農林業経営の効率化、町内各所にある社会福祉施設、病院、観光施設へのアクセスの向上することにより新たな産業の創設等、地域経済活性化による地域再生を図る。 ・目標1)農林業の振興 (林道終点から邑智郡木材市場までの輸送時間短縮5分) ・目標2)町道整備による主要施設へのアクセス改善 (病院福祉施設等への通院時間短縮5分以内人口カバー率10%)

2. 目標を達成するために行う事業(地域再生法第5章の特別の措置を適用して行う事業)の経過検証

目標を達成するために行う事業	町道	施設名	区分	認定当初	変更後	現在実績又は実績見込み	検証
		①田代有安線	事業期間	H22~H26	H22~H26	H22~H23	当初計画以上の成果を達成した。事業量については、ルート追加による延長増。
	事業量	W=5.0m L=480m	W=5.0m L=480m	W=5.0m L=660m			
	事業費	60,000千円	60,000千円	103,371千円			
	交付金	30,000千円	30,000千円	56,580千円			
	②石見中央線	事業期間	H22	H22	H22	事業量は路線の中で優先する箇所の整備を行ったため下回る結果となった。事業費については、地盤が軟弱であったため増額となった。	
	事業量	W=6.0m L=1600m	W=6.0m L=1600m	W=5.0m L=1179m			
	事業費	40,100千円	40,100千円	51,101千円			
	交付金	20,050千円	20,050千円	25,500千円			
	③西日向線	事業期間	H24~H25	H24~H25	H24~H25	土地所有者の理解を得、最短ルートで計画できた。平成25年豪雨の災害復旧事業優先のため、本改良工事を休止している、平成28年度完了予定としている。	
	事業量	W=5.0m L=400m	W=5.0m L=400m	W=4.0m L=218m			
	事業費	50,000千円	50,000千円	80,603千円			
	交付金	25,000千円	25,000千円	40,302千円			
	④鱒淵馬野原線	事業期間	H23~H26	H23~H26	H23~H26	車両の通行量が増加しており路面損傷が著しいので全線を施工した。	
	事業量	W=11.0m L=1500m	W=11.0m L=1500m	W=6.0m L=3067m			
	事業費	120,000千円	120,000千円	213,881千円			
	交付金	60,000千円	60,000千円	139,023千円			
	⑤高見宇都井線(旧瑞穂分・旧羽須美分)	事業期間	H22~H26	H22~H26	H22~H26	詳細設計により橋梁の増設や法面対策工(法枠、ロックネット)の必要が生じた。当初計画した改良延長には達しなかった。走行性の確保とコスト縮減の両立が課題。次期計画で継続実施。	
	事業量	W=5.0m L=1700m	W=5.0m L=1700m	W=5.0m L=969m			
	事業費	500,000千円	500,000千円	277,507千円			
	交付金	250,000千円	250,000千円	114,085千円			
	⑥中ノ原新山線	事業期間	H22~H26	H22~H26	H22~H26	本線は、山腹のルートであり木材の伐採、法面対策工の必要性が生じた。当初計画した改良延長には達しなかった。次期計画で継続実施、H28年度完成を予定している。	
	事業量	W=5.0m L=1400m	W=5.0m L=1400m	W=5.0m L=330m			
	事業費	250,000千円	250,000千円	241,218千円			
	交付金	125,000千円	125,000千円	143,368千円			
	⑦判場川角線	事業期間	H22~H26	H22~H26	H22~H26	詳細設計により橋梁の増設や高盛土の必要が生じた。当初計画した改良延長には達しなかった。次期計画で継続実施。	
	事業量	W=5.0m L=1000m	W=5.0m L=1000m	W=4.0m L=620m			
	事業費	250,000千円	250,000千円	213,162千円			
	交付金	125,000千円	125,000千円	132,713千円			
	⑧日南川松木線	事業期間	H24~H26	H24~H26	H24~H25	現地精査の結果、事業量減となった。計画区域は完了することができた。	
	事業量	W=5.0m L=300m	W=5.0m L=300m	W=5.0m L=207m			
	事業費	100,000千円	100,000千円	28,459千円			
	交付金	50,000千円	50,000千円	14,229千円			
	⑩川本布施線	事業期間	H22~H23	H22~H23	H22~H23	当初計画とおり完了することが出来た。	
	事業量	W=5.0m L=1358m	W=5.0m L=1358m	W=5.0m L=1358m			
	事業費	120,000千円	53,600千円	53,600千円			
	交付金	60,000千円	26,800千円	26,800千円			
	⑪三坂小林線	事業期間	H22~H26	H22~H26	H22~H26	当初計画とおり完了することが出来た。	
	事業量	W=5.0m L=1600m	W=5.0m L=2412m	W=5.0m L=2412m			
	事業費	440,000千円	533,400千円	533,400千円			
	交付金	220,000千円	266,700千円	266,700千円			

認定計画(変更後)

	整備量(km)	事業費(千円)	交付金額(千円)
町道	8.4	1,370,100	685,050
林道	3.8	587,000	293,500
合計	12.2	1,957,100	978,550



実績見込み

	整備量(km)	事業費(千円)	交付金額(千円)
	7.3	1,209,302	665,799
	3.8	587,000	293,500
	11.1	1,796,302	959,299

3. 地域再生計画に記載した目標の達成状況

	指標名		設定時	目標値	実績値	評価
	目標の達成状況	目標1	農林業の振興 (林道終点から邑智郡木材市場までの輸送時間短縮5分)	5	5	7
	目標2	町道整備による主要施設へのアクセス改善(病院への通院時間短縮5分以内人口カバー率10%)	10	10	16	平成25年豪雨災害の為26年事業を休止した路線が2生じた。予算枠が足りず完了が遅れた路線が4生じた。4路線については計画どおり実施出来た。8路線8.4kmの計画に対し8路線7.3kmを改良出来た。当初出来高予定を上回る路線もあり10%の目標に対し16%の人口カバー率を算定しており、目標を達成出来たと考えている。

3. 目標を達成するために行う事業(その他の事業)の実施状況

項目	取り組み内容	実施状況
利用しやすい交通体系の整備	民間公共交通機関が事業を縮小する中であっても高齢者や障害者が利用しやすい公共交通サービスを維持するため、町営バスの運行を継続するとともに、更なる町内の移動の効率化・利便性向上を図る。	高齢者や障害者、児童生徒を中心に町営バスへのニーズは高い。生活交通確保の為様々な検討を行い、効率的、利用しやすい運行計画に努めている。主要地方道を含め周辺道路の整備によりこの5年間で、7路線15kmの路線拡大を行う事が出来た。今後とも、年間を通じ安全、快適で安定した運行に努めることとしている。
参加・滞在型観光の推進	邑南町田舎ツーリズム推進協議会を平成17年度設立。民泊受入農家を募集育成し、安らぎと憩いの空間を提供することにより特色ある農村滞在型観光を推進する。	平成18年1月に邑南町田舎ツーリズム推進研究会を農家民泊4軒で設立し、民泊実践者を核として、邑南町でしか体験できない「食」や「農」、「伝統文化」などの田舎体験を提供している。とくに平成21年からは都会地の小学生等の受け入れ等を積極的に実施し、来町する学校数も着実に増加している。平成27年8月末では、民泊軒数は40軒に増え、活発な取り組みがなされている。この取り組みにより都市農村交流人口が着実に増加しており、今後も継続して実施していく予定である。また、外国人旅行者の受け入れにも積極的に取り組むため、モニターツアーなどを始めている。
新しい農林業の創造	団地内の農地や農道などの基盤整備を行い、大型機械の導入などによりコスト削減を図る。又水田を畑地化等により水稲中心の農業から野菜などの付加価値産物への転換を促進する。森林整備の効率化のため、基幹林道を軸とした作業道を新設し団地内の路網整備を進める。	特定中山間保全事業(H19～H25)で、ほ場整備16.7ha、客土等農地整備62.0ha、用排水路15675mを整備、また県営中山間総合整備事業(H26～H32)等により、ほ場整備13.2ha、客土等農地整備47.6ha、用排水路9844m、頭首工5基、農道2920mを整備予定。その他、小規模な基盤整備も継続して実施している。石見高原ハーブ米、石見和牛など農産品のブランド化は着実に進行している。次には西洋野菜の導入を促進し、邑南野菜のブランド化など、新しい農業の創造に取り組んでいる。

4. 総合評価及び今後の方向性

邑南町を東西に貫く主要地方道浜田作木線をはじめとする主要幹線道路の着実な整備促進や、本事業による町道と林道の一体的整備により主要幹線道を中心とした交通ネットワーク網が広がり、町の周辺地域から中心部の病院や福祉施設へのアクセスが良好となり、地域住民の暮らしやすさが向上した。また、道幅が狭くこれまでバスの通行が困難であった地域にも町営バスの運行が可能となり町内の移動環境は改善され、町民の利便性は向上している。

集落営農組織は62組織、認定農業者は55経営体と増加している、引き続き農業法人等農作業の組織化、機械の大型化によるコスト縮減、農地の流動化を図り農地の保全を図る。農業機械の大型化により飼料用稲の栽培、有機堆肥の利用など耕畜連携による農業振興が図られる、引き続き農道整備や農業基盤の整備を進めていく。水稲中心の農業から野菜などの園芸作物への転換、邑南町ブランド作りなど、新しい農業の創造にも積極的に取り組んでいく。

林業については、森林所有者の森林に対する関心の低下→管理不足→採算性の低下の悪循環が続いている。森林の荒廃が進み災害に対して脆弱な森林が増加しており、新たな課題も生じている。しかし、江津市に平成27年度より木質バイオマス発電所が創設されたことにより、相当量の木材チップの需要が見込まれている。町内には林地残材など未利用資源は豊富にあり、これら森林資源を有効に活用し森林の適正な管理を図るうえでも、林道整備を一体的に進め、林業の活性化を図る必要がある。山間に暮らす集落には矮小で急勾配、カーブ連続する生活道しかなく災害時には孤立する恐れもある。基幹林道は併せて地域の幹線生活道となる整備を目指す。

本地域再生計画の成果と残存する課題を総括し、次期地域再生計画である「Oh!なんと夢響きあう元気の郷づくり計画」では、町民と行政が一体となり、町民一人一人が健康で心豊かな生活ができる郷づくりを目指していく。